

自主性を可視化し、自主性の高い人と組織を作り続けるための

『技術経営』の組織開発と人材開発

～ 技術経営リーダーシップ、技術経営コーチング、改善活動のフォーマット ～

《開催要領》

※講師とご同業の方のご参加はお断りする場合がございます。※最少催行人数に満たない場合、開催中止とさせて頂く場合がございます。

日時▶ 2018年2月16日(金) 13:00～17:00

会場▶ 企業研究会セミナールーム(東京:麹町)

《開催にあたって》

【概要】このセミナーは、研究開発・生産技術に携わる組織と人材を開発するための考え方や具体的な改善事項を提供する内容です。組織開発・人材開発の考え方は高収益の実現です。具体的な改善事項とは、教育ではありません。高収益を生み出す源となる自主性を高める活動のことです。【特徴】技術経営の高収益を生み出すのは社員の自主性と捉えます。自主性を可視化する方法を提示した上で、それを高め、維持する方法を提示します。学術研究に基づく方法を提示することが特徴です。【効果】組織・人材開発を担うご担当者様が来年度の活動に組み込んでいただけるように、考え方や具体的な改善事項をセットにして提供しています。【オススの受講者】人材開発・組織開発に携わる研究開発部門幹部の方、研究企画部門、新規事業推進部門

講師 高収益企業支援家・弁理士 中村大介氏(株式会社如水 代表取締役)

講師紹介
全員経営による技術企業の高収益化の専門家。事業を模倣されて利益率が低迷した経験、社員の離反を招いた経験から継続的な組織成長の仕組みを模索。継続的な組織成長の仕組みは、社員の自発・自律・自治を促す学習と実践(会議)である事に気づき、「全員経営会議」として体系化。現在は全員経営会議の提供や、技術企業の高収益化のコンサルティングを通じて、社員の自己成長を促しつつ組織成長を実現する企業を支援している。クライアント企業では、売上が短期間に2倍になったケース、知財出願ベースが3倍になったケース、有望研究開発テーマが多数立案されたケースがある。専門は技術企業の高収益化。北海道大学卒業・東京大学大学院修了。



《申込方法》当会ホームページ(https://www.bri.or.jp)からお申し込み下さい。

企業研究会Q 検索

■受講料: 1名(税込・資料代含) ※申込書をFAXでご送信いただく際は、ご使用のFAX機の使用状況(0発信の有無など)をご確認の上、FAX番号をお間違えないようご注意ください。

正会員 34,560円(本体価格 32,000円) 一般 37,800円(本体価格 35,000円)

172999-1010 『技術経営』の組織と人材開発

ふりがな 会社名			
住所			
TEL	FAX		
ふりがな ご氏名	所 役	属 職	
E-mail			

※申込書にご記入頂いた個人情報、本研究学会に関する確認・連絡および当会主催事業のご案内をお送りする際に利用させていただきます。

■申込・参加要領 : 当会ホームページからお申込みください。FAX、または下記担当者宛E-mailからもお申込み頂けます。

後日(開催日1週間～10日前まで)に受講票・請求書をお送り致します。

※よくあるご質問(FAQ)は当会HPにてご確認いただけます。([TOP]→[公開セミナー]→[よくあるご質問])

※お申し込み後のキャンセルはお受け致しかねますので、ご都合が悪くなった場合、代理出席をお願いします。

■お申込・お問合わせ先: 企業研究会 公開セミナー事業グループ 担当/民秋・川守田 E-mail: tamaki@bri.or.jp

TEL: 03-5215-3514 FAX: 03-5215-0951 〒102-0083 東京都千代田区麹町5-7-2 麹町M-SQUARE 2F

・プログラム・

1. 技術経営で実現する高収益

- (1) D(開発)とR(研究)は異なる
- (2) どんな組織にもD的業務とR的業務がある
- (3) DとRの両立には自主性が重要

2. 自主性はなぜ大切なのか?

- (1) 自主性の高まった組織での社員の感想
- (2) トップダウンでできること、ボトムアップでしか出来ないこと
- (3) Rは自主性でしかできない
- (4) 持続性の源泉は自主性を維持する仕組みである

3. 自主性を生み出す仕組みは高収益を生み出すか

- (1) 自主性は可視化出来る
- (2) 仕組みで自主性は生み出せる
- (3) 学術的に説明できることの限界、高収益は説明できるか
- (4) 技術経営の仕組みの理解の重要性
- (5) 仕組みの基礎は技術経営リーダーシップとコーチング

4. 組織開発の視点

- (1) 自主性の可視化
- (2) 客観的に仕組みを見つめる(ベンチマーキング)
- (3) 技術経営の規範と自社との比較(診断)
- (4) 幹部のワーキンググループの組成と話し合い

5. 人材開発の視点

- (1) テーマ創出スキル教育
- (2) 技術経営コーチングの教育
- (3) 技術経営リーダーシップの教育
- (4) 継続的改善活動で学習する組織を実現する

6. まとめ

※最少催行人数に満たない場合、開催中止とさせて頂く場合がございます。

裏面もご覧下さい! 一枚のパンフレットで
2種類のセミナーをご案内しております。